

2026年1月20日(火)に、第12回小規模交流勉強会を開催いたしました。



【茂木氏】

2026年1月20日(火)に、第12回小規模交流勉強会を開催しました。今回は「エネルギーと経済安全保障」をテーマに、茂木源人氏(東京大学特任教授)をプレゼンターとしてお招きし、10名のエネルギー、インフラ、情報関連の会員の皆様の参加を得て「交流と学び」の有意義な時間を過ごしました。

冒頭、茂木氏から、石油、LNGや再生可能エネルギーの消費動向等の世界のエネルギー事情を踏まえた供給構造リスクの説明があり、また石油、レアアース等の戦略物資化の経緯について、解説がありました。

供給リスクについては、鉱物資源毎に、精錬・加工実施国の偏在性の状況、マラッカ海峡等の輸送経路上の重要点、また各鉱物の代替可能性を踏まえた経済的重要度につき、わかりやすく解説がされ、わが国において、こうした点を踏まえた評価や対応を行うことが重要であるとのコメントがされました。

その後、会員一人一人からの発言・質問タイムでは、参加された会員企業の経営者と、会員各社におけるエネルギー面での課題や関心事項を踏まえ、エネルギーと環境問題にかかる幅広い内容につき、茂木氏との間で内容の深い、本音の意見交換がなされました。具体的には、レアアースの環境コストの内容や供給制約への対応方向、原発の考え方、水素やアンモニアの将来的可能性等についての質問がありました。

茂木氏よりは、供給制約に係る危機管理の方向性や放射性廃棄物の問題、経済環境の変化を意識した対応の重要性について、示唆のあるコメントを頂きました。

こうして、2時間半に亘って、エネルギーと経済安全保障等について認識を新たにする、大変学びと示唆の多い勉強会となりました。

全体としては、エネルギーを始めとする戦略物資について、多面的な角度から、その重要性を検証し戦略を立案することの重要性を改めて学べたとの声を多く頂きました。また、エネルギーと経済安全保障の話に加え、環境問題において、政治が大きく関係をしていることを改めて理解でき、特に、政府の方針や各種情報やルール、法規制も社会環境により変化する中で、本質を捉え、全体的な構造を理解した上で対策を講じていくことが、企業経営においては必要との声もありました。さらに、自由でここだけの話ができる空間は非常に価値のある勉強会だと改めて痛感したという声、今回のような本質をつく話を聞く場は、他では余りなく、この勉強会で、かかる機会を創れるので嬉しいとの声もありました。また、参加された会員の皆様からは、小人数での交流も出来たとのお声が多く届いております。



【勉強会風景】



小規模交流勉強会は、社団独自の会員の新しい交流と学びの場として進めている活動です。「エネルギーと経済安全保障」については、会員の皆様にとって、関係者も多く、非常に関心の深いテーマですので、勉強会、調査レポート等を通じ、引き続き順次役に立つ気づきを発信して参りますので、どうぞよろしく願います。(廣田記)